

はじめに(総合計画の策定にあたって)

本市は、昭和54年(1979年)に吹田市総合計画基本構想を策定して以来、三次にわたる総合計画を策定し、社会潮流や地域の課題に対応して総合的かつ計画的なまちづくりを進めてきました。

【吹田のまちづくりと地方自治】

年代	吹田市のまちづくりや社会の動きなど	地方自治
1960～70年代	千里ニュータウン開発 日本万国博覧会 地下鉄御堂筋線江坂延伸・北大阪急行開業 江坂開発(大阪副都心)	昭和44年(1969年)地方自治法改正により、基本構想の議決の義務づけ
第1次総合計画 昭和54年～平成7年 (1979～1995年)	人口急増の最終段階 都市基盤整備の充実と強化 吹田駅前再開発完了(昭和55年)	
第2次総合計画 平成8年～平成17年 (1996～2005年)	少子高齢化、情報化、国際化、地球環境問題、バブル崩壊後の経済低迷、阪神淡路大震災(平成7年)など社会経済環境が大きく変化 吹田駅北口地区再開発完了(平成8年) 特例市に移行(平成13年)	平成12年(2000年)地方分権一括法施行
第3次総合計画 平成18年～ (2006年～)	千里ニュータウンの急速な高齢化と人口減少 商業・業務地における卸売業の落ち込み 環境・防災に対する意識の高まり 自治基本条例施行(平成19年) リーマンショックを引き金とする世界同時不況(平成20年) 歴史的円高と製造業の海外拠点化 団塊の世代の一斉退職(平成19年～22年) 東日本大震災の影響 アジアの交流と対立	平成19年(2007年)地方分権推進法施行 平成23年(2011年)地方自治法改正により、基本構想の議決義務撤廃

しかし、近年の社会潮流の変化は著しく、法制度の整備や地域経済の動向などが地方自治に大きな影響を与えています。

人口減少や少子高齢化が進行する中で、将来にわたって、誰もが安心して暮らせる吹田のまちづくりを発展させるためには、市民、市民公益活動団体、事業者、大学、行政等の多様なまちづくりの活動主体が協力、連携する地域力の強化と限られた経営資源の最適活用という観点で取組を続けていくことが不可欠であると考えられます。

また、地域のことは地域で決めるという市が主体的にまちづくりを進める地域主権改革が進展しています。また、この延長線上には、「市においても各地域のことは地域で決める」といった地域の実情にあった主体的な運営が求められており、市民自治の確立に向けた変革期と言えます。

そのため、多様な主体が共有するまちづくりの長期的な展望に立った指針が必要となります。

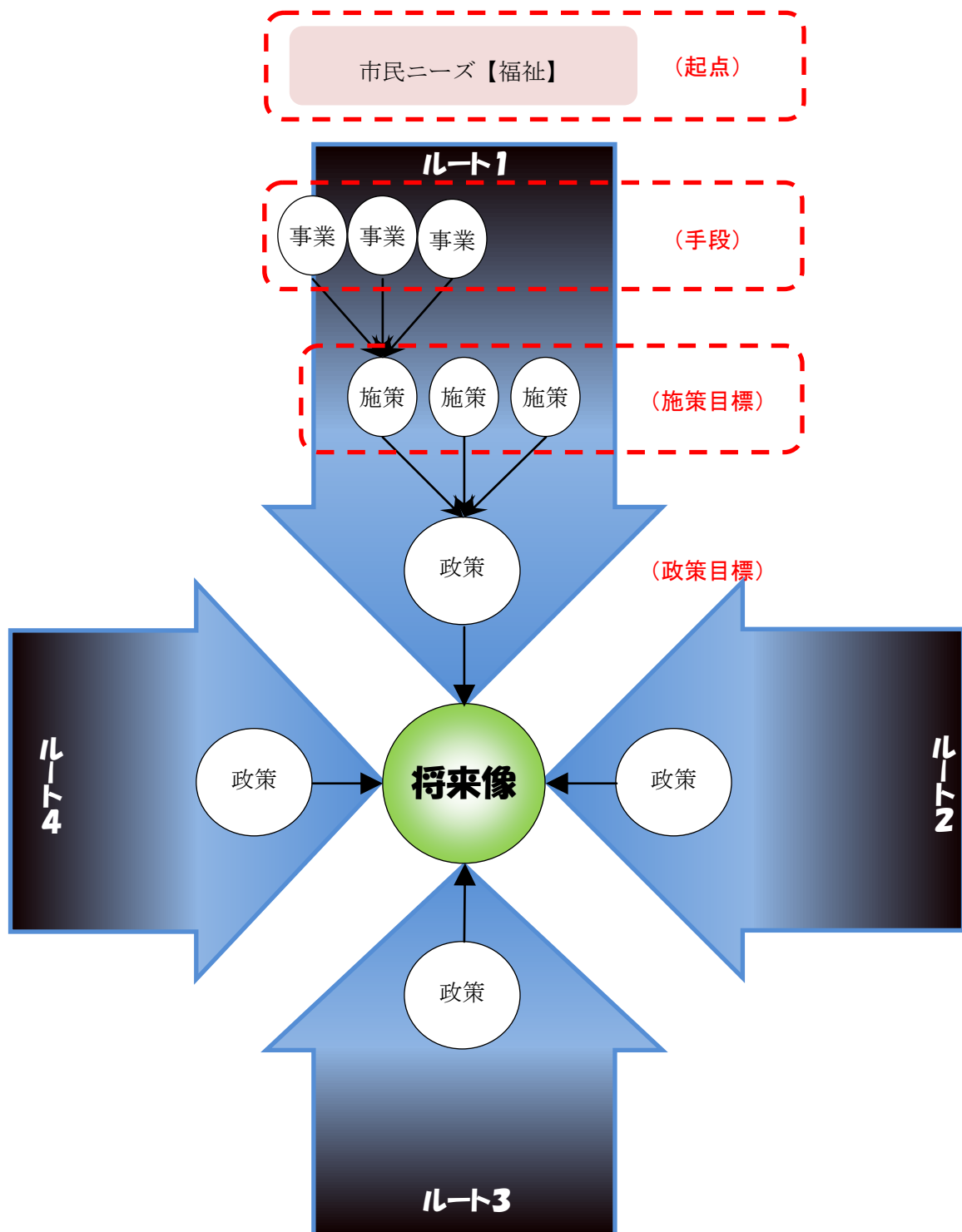
第3次総合計画は中間見直しの時期を迎えていますが、これらの状況を踏まえると、基本計画の見直しにとどまらず、基本構想を含む総合計画全体を再構築する必要があります。市民、事業者、行政等がそれぞれの得意分野を生かしながらまちづくりを進める際に活用できる計画「吹田市総合計画・2020ロードマップ」として、総合計画を新たに策定することとします。

吹田2020ロードマップとは

ロードマップとは、総合計画の目標達成に向けた道筋を示すものです。

ロードマップには「何を達成するために(目標)」「いつまでに(期限)」「どのようにして実施するか」などを示します。

吹田市総合計画は 2020 年の将来像に向けたロードマップを示します。



第 1 章 総合計画の役割と位置づけ

本市の将来は、市の意志によって決められた将来像に向けた計画（ロードマップ）に沿って、さまざまな主体の役割分担によるまちづくりを進め、市の責任で創造しなければなりません。

○目指す将来像と将来像へのロードマップを掲げる（自己決定と自己責任の顕示）

総合計画は、市民アンケート、ワークショップ、地域懇談会などの様々な市民参画を経て市民と議会と行政により将来像と将来像へのロードマップを定めます。

○まちづくりに関係する主体の行動指針

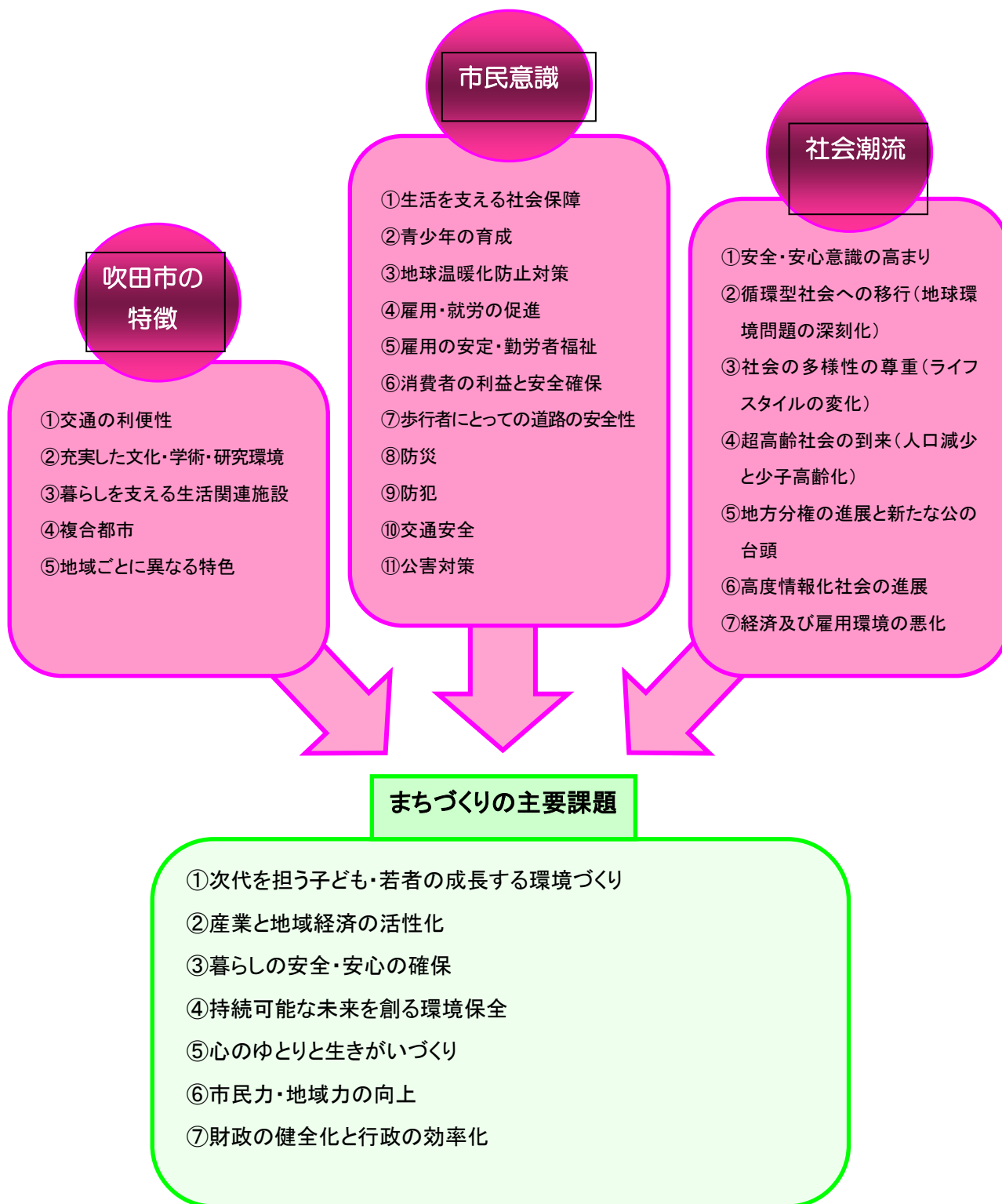
総合計画は、市民・市民公益活動団体・事業者・行政など様々な主体が、協働と適切な役割分担のもとでまちづくりを進めて行く上において共有すべき指針となります。

○行財政運営の指針

総合計画は、最適な経営資源の活用など効率的かつ効果的な行政経営の基本方針を示すとともに、計画の進捗管理の道標となります。

○最上位計画としての指針

総合計画は、都市基盤、福祉、教育、子育て、産業、環境、文化、スポーツなど市民生活のあらゆる分野を横断する最も上位に位置づけられる計画として方向性を示し、各分野別計画の整合を図る役割を果たします。



4. まちづくりの主要課題

(1) 次代を担う子どもが成長する環境づくり

本市の人口減少や高齢化は全国に比べ遅れて進んでいますが、このまま人口が推移すれば、少子化は全国より早く進むことが予測されます。今後は、学校、地域、行政が一体となって、子育てや教育環境を充実し、安心して子どもを生み育てられるまちとしていくことが求められます。

(2) 産業と地域経済の活性化

グローバル経済の波は地域の産業や経済に多大な影響を及ぼし、財政やまちづくりまでも左右します。本市は起業数が関西随一であることを生かし、産業を育成・定着する環境を整え、地域経済力を向上することが求められています。

(3) 暮らしの安全・安心の確保

災害による人命や財産の損失を減らし、地域での犯罪や事故による生活不安を軽減することで、安心して暮らせる環境を整えることが求められています。また、地域で支え合うことによって誰もが社会に参画できる環境を創り出すことが必要です。

(4) 持続可能な未来を創る環境保全

本市の持続可能な未来を創り出すためには、地球規模の環境問題にも対応した低炭素型・循環型のまちづくりを進める必要があります。

(5) 心のゆとりと生きがいづくり

成熟社会の到来は市民の価値観の多様性をもたらし、幸福度や生活満足度を求める人々が増加しています。また、高齢社会によってもたらされる自由時間は、生涯学習、ボランティア活動などに当てられることが考えられ、適切なマッチングにより地域力の向上や子育てなどまちづくりに相乗効果を発揮することが期待されます。

(6) 市民力・地域力の向上

吹田市は地域によって異なる特色をもっており、地域が抱える課題もその内容や程度はさまざまです。地域の特色を生かしながら、地域固有の課題を解決し、望ましい地域を創造するためには、そこで住み、働き、学ぶなど日々の生活から感じられることを反映することが重要です。

このため、地域のことは地域で決める主体的な地域運営の確立に向け、市民や事業者の意識の向上やNPOの育成など市民力・地域力を向上する必要があります。

(7) 財政の健全化と行政の効率化

将来世代に過度の負担を残すことなく、社会経済や行政需要の変化に対応できる財政基盤の確立に向けて、選択と集中により、行政の効率化を徹底するとともに収支構造の健全化と財政構造の弾力化を念頭に置いた財政運営を進める必要があります。

また、老朽化した公共施設をはじめとした社会資本の更新を計画的に進めていく必要があります。

第2章 人口および都市構造

1. 人口

本市の将来人口は、平成32年（2020年）頃までは概ね現状維持の状態が続き、その後は人口減少が進むものと見込まれます。

また、人口の年齢構成は、年少人口（14歳以下）と生産年齢人口（15～64歳）は、いずれも減少する一方、老年人口（65歳以上）は増加するなど本市でも少子高齢化が進むと予測されます。

そうした中で、本市が、活力ある都市として持続的に発展していくためには、多様な交流による都市の活性化を図るとともに、世代のバランスが取れた人口構成をめざす必要があります。

このため、本市の魅力を外にアピールするとともに、次世代を育む環境づくりや良質な住まいの維持及び誘導など、住みたい都市として選ばれる様々な施策を推進し、定住化の向上を図ることにより、本計画の目標年度である平成32年度（2020年度）の本市の将来人口を概ね35万5千人と設定します。

1 交流人口

交流人口とは、その地域を訪れる（交流する）人のこと。その地域に住んでいる人、つまり「定住人口」（又は居住者・居住人口）に対する概念である。

その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、アミューズメントなど、特に内容を問わないのが一般的である。

- (1) 人口減少社会における、限られた人口で経済の衰退を抑えようとする考えの傾向が強い
- (2) 主に地方の観光や集客としてのイメージが強い
- (3) 「定住人口」を補完するものとして「交流人口」を捉えている傾向
(目的によって捉え方、意味合いが違ってくる)

*吹田市の場合

- ア) 目標年次における著しい人口減少ということは考えにくい
- イ) 市民から見て分かりにくい表現

修正案 交流人口ではなく、多様な交流による活性化という表現に変更

多様な交流のイメージ

市外から入ってくるものも含め人、物、資金、自然などの地域の資源となるものの交流、融合によりまちの活性化や「新しい公共」につながる可能性があるというイメージ

2 流入人口

市外から本市へ通勤・通学する人口

- ア) 本市は流入人口（市外からの通勤者・通学者）、流出人口ともに多い
- イ) 市民から見て分かりにくい表現

修正案 流出人口ではなく、多様な交流による活性化という表現に変更

年齢別人口からの考察(住民基本台帳各年度9月末比較)

	年齢区分	JR以南地区				山田・千里丘地区				千里NT・万博・阪大				千里山・佐井寺				片山・岸部				豊津・江坂・南吹田				年齢区分	全市域			
		H18年度(2006)	H23年度(2011)	H23-H18	H23/H18	度(2006)	H23年度(2011)	H23-H18	H23/H18	H18年度(2006)	H23年度(2011)	H23-H18	H23/H18	H18年度(2006)	H23年度(2011)	H23-H18	H23/H18	H18年度(2006)	H23年度(2011)	H23-H18	H23/H18	H18年度(2006)	H23年度(2011)	H23-H18	H23/H18					
子育て 教育	0: 4	1,245	1,128	▲ 117	90.6%	4,150	4,033	▲ 117	97.2%	2,407	2,367	▲ 40	98.3%	3,516	3,116	▲ 400	88.6%	2,572	2,475	▲ 97	96.2%	2,902	2,969	67	102.3%	0: 4	16,792	16,088	▲ 704	95.8%
	5: 9	1,595	1,322	▲ 273	82.9%	4,373	4,537	164	103.8%	2,891	2,438	▲ 453	84.3%	3,945	3,516	▲ 429	89.1%	2,734	2,523	▲ 211	92.3%	2,577	2,706	129	105.0%	5: 9	18,115	17,042	▲ 1,073	94.1%
	10: 14	1,430	1,598	168	111.7%	3,941	4,415	474	112.0%	2,989	2,806	▲ 183	93.9%	3,417	3,783	366	110.7%	2,495	2,547	52	102.1%	2,067	2,515	448	121.7%	10: 14	16,339	17,664	1,325	108.1%
	15: 19	1,464	1,517	53	103.6%	3,918	3,991	73	101.9%	2,682	2,877	195	107.3%	3,507	3,274	▲ 233	93.4%	2,482	2,507	25	101.0%	2,096	2,222	126	106.0%	15: 19	16,149	16,388	239	101.5%
就職 結婚 出産 働く	20: 24	2,025	1,758	▲ 267	86.8%	4,487	3,753	▲ 734	83.6%	2,930	2,455	▲ 475	83.8%	4,170	3,553	▲ 617	85.2%	3,335	2,820	▲ 515	84.6%	3,743	3,342	▲ 401	89.3%	20: 24	20,690	17,681	▲ 3,009	85.5%
	25: 29	2,245	2,000	▲ 245	89.1%	4,879	3,977	▲ 902	81.5%	3,226	2,512	▲ 714	77.9%	4,046	3,532	▲ 514	87.3%	3,575	3,185	▲ 390	89.1%	5,130	5,226	96	101.9%	25: 29	23,101	20,432	▲ 2,669	88.4%
	30: 34	2,795	2,126	▲ 669	76.1%	6,697	5,135	▲ 1,562	76.7%	4,400	3,165	▲ 1,235	71.9%	5,320	3,936	#####	74.0%	4,519	3,692	▲ 827	81.7%	6,133	5,309	▲ 824	86.6%	30: 34	29,864	23,363	▲ 6,501	78.2%
	35: 39	2,810	2,670	▲ 140	95.0%	6,754	7,090	336	105.0%	5,064	4,363	▲ 701	86.2%	6,012	5,257	▲ 755	87.4%	4,605	4,483	▲ 122	97.4%	5,549	6,108	559	110.1%	35: 39	30,794	29,971	▲ 823	97.3%
余暇 活動 社会 参加	40: 44	2,210	2,767	557	125.2%	5,267	6,858	1,591	130.2%	4,489	5,059	570	112.7%	5,052	5,723	671	113.3%	3,575	4,371	796	122.3%	3,983	5,538	1,555	139.0%	40: 44	24,576	30,316	5,740	123.4%
	45: 49	1,811	2,229	418	123.1%	4,508	5,292	784	117.4%	3,531	4,347	816	123.1%	4,155	4,629	474	111.4%	3,012	3,401	389	112.9%	3,059	4,005	946	130.9%	45: 49	20,076	23,903	3,827	119.1%
	50: 54	1,944	1,797	▲ 147	92.4%	4,939	4,414	▲ 525	89.4%	3,507	3,420	▲ 87	97.5%	3,915	3,807	▲ 108	97.2%	2,987	2,868	▲ 119	96.0%	3,274	3,067	▲ 207	93.7%	50: 54	20,566	19,373	▲ 1,193	94.2%
	55: 59	3,018	1,923	▲ 1,095	63.7%	7,095	4,749	▲ 2,346	66.9%	4,913	3,317	▲ 1,596	67.5%	5,005	3,654	#####	73.0%	4,360	2,847	▲ 1,513	65.3%	4,638	3,166	▲ 1,472	68.3%	55: 59	29,029	19,656	▲ 9,373	67.7%
	60: 64	2,545	2,880	335	113.2%	4,791	6,840	2,049	142.8%	4,153	4,716	563	113.6%	3,178	4,541	1,363	142.9%	3,414	4,108	694	120.3%	3,193	4,318	1,125	135.2%	60: 64	21,274	27,403	6,129	128.8%
	65: 69	2,490	2,380	▲ 110	95.6%	3,812	4,582	770	120.2%	4,976	3,899	▲ 1,077	78.4%	2,571	2,950	379	114.7%	3,031	3,224	193	106.4%	2,738	2,980	242	108.8%	65: 69	19,618	20,015	397	102.0%
	70: 74	2,284	2,310	26	101.1%	2,541	3,628	1,087	142.8%	4,940	4,664	▲ 276	94.4%	2,047	2,374	327	116.0%	2,488	2,804	316	112.7%	2,088	2,480	392	118.8%	70: 74	16,388	18,260	1,872	111.4%
	75: 79	1,598	2,000	402	125.2%	1,659	2,343	684	141.2%	3,303	4,447	1,144	134.6%	1,442	1,810	368	125.5%	1,690	2,244	554	132.8%	1,422	1,866	444	131.2%	75: 79	11,114	14,710	3,596	132.4%
	80: 84	1,002	1,318	316	131.5%	1,000	1,474	474	147.4%	1,804	2,715	911	150.5%	974	1,208	234	124.0%	1,081	1,394	313	129.0%	902	1,134	232	125.7%	80: 84	6,763	9,243	2,480	136.7%
	85: 89	536	682	146	127.2%	475	798	323	168.0%	907	1,286	379	141.8%	464	739	275	159.3%	610	799	189	131.0%	502	633	131	126.1%	85: 89	3,494	4,937	1,443	141.3%
90: 94	247	311	64	125.9%	226	300	74	132.7%	397	497	100	125.2%	246	279	33	113.4%	309	339	30	109.7%	198	289	91	146.0%	90: 94	1,623	2,015	392	124.2%	
95: 99	78	81	3	103.8%	52	101	49	194.2%	132	151	19	114.4%	70	106	36	151.4%	94	108	14	114.9%	55	70	15	127.3%	95: 99	481	617	136	128.3%	
100: 104	14	22	8	157.1%	8	7	▲ 1	87.5%	18	20	2	111.1%	5	16	11	320.0%	21	32	11	152.4%	5	12	7	240.0%	100: 104	71	109	38	153.5%	
年齢不明										1	0	▲ 1	0													年齢不明	1	0	▲ 1	
		35,386	34,819	▲ 567	22	75,572	78,317	2,745	24	63,659	61,521	▲ 2,138	22	63,057	61,803	#####	25	52,989	52,771	▲ 218	22	56,254	59,955	3,701	25		346,917	349,186	2,269	23

人口推移からの考察

視点1 就職、結婚の際に転居する機会が多いため、この世代に焦点を当てた施策

⇒ 例: 若年層 住宅政策 (転入促進)

視点2 子育て世代に焦点を当てた施策

⇒ 例: 子育て・教育

視点3 団塊の世代が後期高齢者となる概ね10年後以降の高齢者に係る施策

⇒ 例: 高齢者の社会参加・介護予防

視点4 生産年齢人口の割合の増(働く人を増やす)

⇒ 例: 女性の就労、社会参加、ワークライフバランス

- (1) 選ばれる市
社会増減(転入)に影響を与える
と考えられる(結婚・就職)が多い年齢層
に焦点を当てる
- (2) 人口構成の世代バランス
子育て世代に焦点を当てる

- (1) 次世代を育む環境づくり
- (2) 良質な住まいの維持及び誘導

*住みたい都市(まち)として選ばれる様々な施策を推進